



日耳鼻医学会 F A X ニュース NO 123

平成19年1月29日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会 E-mail jimu@jenti.or.jp HP http://www.jenti.or.jp
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

年頭のご挨拶

日耳鼻医学会理事長 清水淑郎

新しい年を迎え、ご挨拶を申し上げます。

昨年は米国ブッシュ政権がイラク戦争の反省からか温和しくしていたので世界は比較的平穏であったようです。また、我が国では激動の小泉内閣が終わって、後継の安倍内閣が誕生しました。日本医師会も執行部が大きく変わりました。

診療報酬改定の影響をもの受け、私達は「政治なくして医政なし、医政なくして医療なし」をまざまざと痛感致しました。国民の健康と命を守るため、良質の医療を保つためには、私達は政治家や所轄官庁、また専門家集団と絶えず話し合っ政策を提言していかなくてはなりません。その為にも全国の医師は一致協力して日本医師会を全面的にバックアップして行くべきと考えております。

そこで、当会は、医連の頃から日本医師会の一員として活動するため日医会長を顧問に頂き、また学問的指導を頂くために日耳鼻学会理事長にも昭和61年まで顧問をお願いしていましたが、その後内部の意見対立などで、退会・休会する会会が続く組織が弱体化致しました。しかし設立時の政治活動オンリーの集団から時代の変化と社会の要望に応えるために組織の改革を計り平成13年にNPO法人となりました。

その後当会の活動に理解が深まり少しずつ会員が増加して参り、特に1昨年昨年併せて80名以上も会員が増えた事は大きな喜びであります。また武見敬三参議院議員には皆様既にご承知の如く、当会理事として多大なるご指導を頂いておりますが、昨年は再び念願だった唐沢祥人日医会長の顧問就任が実現し、続いて西島英利参議院議員にも顧問になって頂き、心強い限りであります。

地球規模のグローバル化が進み、民主主義の成熟した文化国家日本では現在「M & A」企業の合併と買収が進んでいます。金融機関の統合、自治体(市町村)の合併、法律事務所の陣容拡大、製薬会社の合併、公立病院の統廃合などが着々と進み、生き残りを計っております。

日本医師会と政治家を後盾に頂き、あとは日耳鼻学会の全面的なご指導を頂くことが最終目標であります。その実現を期すには、過去の清算をきちんとつけて学会のご理解を得るよう、しっかりとした手続きを踏まねばなりません。最大限の努力と礼を尽くせば相互理解が進むと思えますし、学会と仲良くなると退会・休会をした医会もきっと復帰してくれると確信しています。学会指導のもと、耳鼻咽喉科の研究者・教育者・行政医・勤務医・開業医が大同団結することが最終最大の目的であり、今年の「夢」であります。

今年は医連時代を通して創立40周年の記念の年に当たります。この節目の年に是非とも「夢」の実現に努力して参りたいと思います。

皆様のご健勝を祈念し、ご協力とご指導をお願い申し上げます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます
本年も宜しくお願い申し上げます

平成19年 元旦

(特)日本耳鼻咽喉科医学会 役員委員一同

第5回全理事会報告

1月21日開催

報告及び連絡事項 1)庶務報告(10/15~1/20分)
2)ポスター配布について、5種のポスターを作成し会員に送付、スポンサーの関係で花粉症関係が多くなる事の説明 3)岐阜フォーラムについて 大枠が決まり詳細は次回に報告できる見込み 4)個人会員入会状況 17年度43名、18年度44名入会、個人会員数337名
協議事項 1)創立40周年記念事業について 岐阜フォーラムの全体集会の前に記念式典が出来るよう岐阜県耳鼻科医学会にお願いすることにした 2)西島参議院議員の顧問就任について 理事会で正式に承認、各医会長へ文書で案内することにした 3)医事紛争・苦情処理について 会員の関心の高い事であるので、かみやFAXニュースで出来る限り多くの情報を提供することにした 4)医連・医会の40年の歴史を顧みて 設立の経緯、その後の経過、関連団体との関係など、往時を知る役員より説明があり、今後の医会の進むべき道を討議 5)その他
全理事会終了後、事務所において新年会を行った。

平成18年4~9月医療費の動向のポイント

平成18年4~9月医療費の伸び率(対前年同期比)は0.0%、1日当たり医療費0.9%、受診日数(患者数)0.89%

医療費全体の1日当たり医療費の伸び率について、制度改正や診療報酬改定の影響のない平成17年度の伸び率と比較した場合の差は2.5%となっている。

1施設当たり医療費は医科診療所の計では対前年同期比0.7%、内科0.0%、小児科2.7%、産婦人科0.9%、眼科3.6%、耳鼻科1.6%。

2007年全国スギ・ヒノキ科花粉飛散予測

2007年 春のスギ・ヒノキ科花粉総飛散数は、全国的に過去10年平均より少なめ、また昨年と比較しても少なくなる見込み。

過去20年余りのスギ・ヒノキ科花粉の予測結果から、前年7月の平均気温や日照時間が平年より高いか多いほど、翌年の花粉数が多くなることがわかっている。2006年の7月の平均気温は、西日本の一部を除き全国的に平年並みだったが、日照時間は梅雨明けが遅かったこともあり、平年よりかなり少なく、また昨年よりもごく一部を除き少なくなった。このため、過去10年の平均値(平年)と比較すると、2007年の飛散数は東日本で30~50%、西日本は50~100%、また2006年と比較しても東日本は総じて同程度、西日本は50%前後、全国的は20~50%。

プロスタグランジン抑制作用を有するα₁受容体拮抗薬
アレルギー性鼻炎治療薬
3 バイナス 50mg 錠 75mg 錠
オタロムに特許
Baynas 鼻噴霧器
処方箋なし、処方せん不要、処方箋なしでも購入可能
性別・年齢・用法・用量・禁忌・使用上の注意事項については、
製品添付文書をご確認ください。
※服用中の飲酒は避けてください。
販売(資料請求先) 宇都宮 製造販売元
日本新薬株式会社 東京都中央区京橋2-11-8
製造販売元 バイエル薬品株式会社 大塚市蓮1-1-1
©2007年1月現在